

令和5年度（2023年度）青空教室の結果について

1 実施期間

令和5年（2023年）9月16日（土）～9月18日（月・祝）2泊3日

2 実施までの経過

- 7月 8日（土） 参加者説明会（まなぶん横須賀）
市スタッフおよび自然の家スタッフによる参加希望者とその保護者に向けた説明会
- 8月25日（金） 参加者交流会（まなぶん横須賀）
市スタッフ、学生ボランティアと参加者の交流

3 実施場所

国立若狭湾青少年自然の家（福井県小浜市）

4 結 果

(1) 参加児童生徒数（申込み23名、キャンセル2名、当日欠席4名）

		小2	小5	小6	中1	中2	中3	総計
適応教室	男	1		1		2		4
	女		1		2	3	7	13
その他	男							0
	女							0
計		1	1	1	2	5	7	17

(2) 活動内容（主な内容）

- 9月16日（土） 8：30 東海市役所集合、出発の会
11：30 縄文ロマンパーク、海浜自然センター
14：00 国立若狭湾青少年自然の家着
15：40 活動① ボランティアとの交流
19：00 活動② ナイトウォーク等
- 9月17日（日） 9：00 活動③ シーカヤック、スノーケリング、
13：30 活動④ サップ、ボート
磯釣り、磯観察、磯遊び
19：00 活動⑤ ボランティアへの感謝の手紙作成
ボランティアとの交流
- 9月18日（月・祝） 9：00 活動⑥ カッター船活動
14：00 国立若狭湾青少年自然の家発
16：30 東海市役所着、解散

(3) 参加した児童生徒の様子

- ・ 1日目は、まず縄文ロマンパークで昼食をとってから福井県海浜自然センターを見学するなど、福井県の施設を訪問した。その後、青少年自然の家に予定通り到着し、若狭のスタッフやボランティアの方々にしっかりと挨拶をした後、昨年度よりも多く時間をとってアイスブレイクを行い、緊張した心をほぐすことができた。ボランティアと一緒に過ごすうちに会話も進み、少しずつ打ち解けていき、日が沈むまで海辺で過ごす姿も見られた。
- ・ 2日目の活動は、終日天候もよく、海も穏やかだったため活動することができた。1日目の夜にやってみたい活動をすべて書き出し、当日はその中から午前・午後で一つずつ活動を選択してボランティアと共に参加した。子どもたちは、海に入れた喜びと自然の美しさに感動した様子で、笑顔でボランティアと楽しみながら活動する姿が見られた。
- ・ 国立若狭湾青少年自然の家のスタッフから心温まる多くのサポートをしていた。1日目の夜は、スウェーデントーチでマシュマロを焼いて食べたり、波の音を聴いたり、星空を眺めたり、ゆっくりとした時間を感じることができた。2日目の海の活動では安全に活動できる内容を最大限考慮し、活動内容別に担当者を配置してくださった。
- ・ 2日目の夜には、ボランティアへの感謝の手紙をそれぞれが思いを込めて書くことができた。3日目のおわりのつどいで手渡し、感謝の気持ちを伝えた。また、ボランティアもサプライズで手紙を用意しており、受け取った子どもたちからは笑顔と涙があふれていた。3日間を共に過ごした思い出がよみがえり、お互いが笑顔で感謝の気持ちを伝え合う姿が印象的であった。
- ・ 昨年度、台風のため中止したカッター船活動も行うことができ、14時に若狭湾青少年自然の家を出発し、16時半頃に市役所に帰着した。子どもたちに疲れは見たものの、さまざまな活動に取り組めたという達成感でいっぱいの充実した顔が見られた。

5 評価

- ・ 例年、第1回交流会と説明会を別日に実施していたが今年度は、両会を同日に実施した。そのことにより、参加した保護者も若狭湾スタッフからの詳しい説明を聞くことができた。また、東海市のスタッフの準備等の軽減につながった。
- ・ 東海市からの大学生ボランティア10名（大同大学）と若狭湾ボランティア9名に参加していただき、子どもたちに寄り添いながら活動を安全にサポートできた。
- ・ 参加した子どもに変化が見られた。特にボランティアとの交流や海の活動が楽しかった様子が伺える。（4(3)に提示）

6 課題

- ・ 今年度も参加者は、「ほっと東海」に通級（手続き前の体験を含む）している者のみの参加であった。今後も、ほっと東海への通級者に限らず、不登校傾向の児童生徒とその保護者に、青空教室の目的、実施内容及び参加者の声を広く届けられるようにしていくことが課題である。
- ・ 東海市の大学生ボランティアで、1名体調不良者が出たため若狭の小浜病院の救急外来を受診した。児童生徒だけがや病気が発生することはなかったが、体調不良の学生ボランティアに付き添うスタッフの人員確保が難しい状況であった。児童生徒やボランティア、スタッフの健康管理や緊急時の対応にあたることのできる養護教諭等の引率も考えていきたい。今後も本施設で実施することが適切であると考えているが、安心・安全な運営に努めたい。